

授業科目名	心理学実験実習
科目番号	0BTB011
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 月3,4
担当教員	登藤 直弥
授業概要	教員指導のもとで、履修生が学士課程の心理学統計実習等のインストラクターを務める。インストラクターとして学類生に各種の心理統計の実際を体験的に教える活動を通して、研究推進における心理学統計についての理解を深め、さらに将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス: マネジメント能力、コミュニケーション能力 学位プログラムコンピテンス: 心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	大学生が心理学の研究・学習を行う上で必要となる、記述統計、推測統計(仮説検定)、各種データ解析手法に関する実習計画及び実習教材を作成し、教育的指導ができるようになることが、本授業の到達目標である。
授業計画	<p>心理学統計法IならびにIIにおいては以下のことを教授する予定である。履修者はこれらに関する実習内容を考え、実行すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述的指標(e.g., 平均,分散,相関)</li> <li>・確率モデルと標本分布</li> <li>・推定と検定の考え方</li> <li>・カイ2乗検定</li> <li>・(重)回帰分析</li> <li>・t検定</li> <li>・分散分析</li> <li>・因子分析</li> <li>・共分散構造分析</li> </ul> <p>実習の基本スケジュールは以下の通り</p> <p>第1回 教科書第1章の実習資料作成  第2回 教科書第2章の実習資料作成  第3回 教科書第3章の実習資料作成  第4回 教科書第4章の実習資料作成  第5回 教科書第5章の実習資料作成  第6回 教科書第6章の実習資料作成  第7回 教科書第7章の実習資料作成  第8回 教科書第8章の実習資料作成  第9回 教科書第9章の実習資料作成  第10回 教科書第10章の実習資料作成  第11回 教科書第1章の実習練習  第12回 教科書第2章の実習練習  第13回 教科書第3章の実習練習  第14回 教科書第4章の実習練習  第15回 教科書第5章の実習練習  第16回 教科書第6章の実習練習</p>

授業計画	<p>第17回 教科書第7章の実習練習</p> <p>第18回 教科書第8章の実習練習</p> <p>第19回 教科書第9章の実習練習</p> <p>第20回 教科書第10章の実習練習</p> <p>第21回 教科書第1章の実習実施</p> <p>第22回 教科書第2章の実習実施</p> <p>第23回 教科書第3章の実習実施</p> <p>第24回 教科書第4章の実習実施</p> <p>第25回 教科書第5章の実習実施</p> <p>第26回 教科書第6章の実習実施</p> <p>第27回 教科書第7章の実習実施</p> <p>第28回 教科書第8章の実習実施</p> <p>第29回 教科書第9章の実習実施</p> <p>第30回 教科書第10章の実習実施</p>
履修条件	心理学学位プログラムの学生に限る。
成績評価方法	実習の準備状況(50%)、ならびに実習の実施状況(50%)により評価を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	心理統計、データ解析等の書籍の講読を通して実習計画を設計し、準備すること。
教材・参考文献・配付資料等	<p>「心理学統計法I」と「心理学統計法II」の教科書となっている以下の書籍、ならびにその問題集を参考に実習内容を計画し、実行すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 南風原朝和,心理統計学の基礎</li> <li>2. 南風原朝和・杉沢武俊・平井洋子,心理統計学ワークブック 理解の確認と深化のために</li> </ol>
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>実習に関して質問等がある場合には、以下のメールアドレスまで連絡すること。</p> <p>ntodo at human.tsukuba.ac.jp</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	心理学統計法Iの初回の授業後に履修者に対してオリエンテーションを実施するので、履修を希望するものは必ず参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	心理統計教育

授業科目名	心理学研究マネジメント実習1
科目番号	0BTB012
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 月5,6
担当教員	原田 悦子
授業概要	教員指導のもとで、履修生が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設する。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に大枠としての研究の進め方の指導方法について、体験的に学ぶことを目的とする。
備考	その他の実施形態 対面またはオンライン（郷地双方向型）により実施
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	教育者や指導者としての能力の形成を図る。 各種の心理学研究法を学生に教えることを通して、心理学研究法の教育・指導に関する能力を形成する。
授業計画	各指導教員が担当する研究グループの学生に対して、教員の指導のもと、院生が中心となって共同研究を遂行させる。研究構想から始まり、研究計画、研究の実施、データ分析、論文執筆、研究成果のプレゼンテーションまでを遂行させ、研究を完成させる。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	研究指導の過程と研究成果の水準を総合的に勘案して単位の認定を行う。実習であるためテストは行わない。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	研究についてわかりやすく学生を指導するため、最先端の心理学研究法について各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。
教材・参考文献・配付資料等	参考文献として以下の著書を薦める。 1. 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編), 『心理学研究法入門：調査・実験から実践まで』東大出版会, 2001 2. 南風原朝和(著), 『心理統計学の基礎 総合的理解のために』有斐閣, 2002 3. 南風原朝和(著), 『続・心理統計学の基礎 総合的理解を広げ深める』有斐閣, 2002 4. 松井 豊(著), 『改訂新版 心理学論文の書き方:卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社, 2010
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	研究の高度な学術的水準の達成と、学生に対するわかりやすい教授の両方を兼ね備えた内容になるよう真摯に取り組むこと。オリエンテーションならびに反省会には必ず参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	教授法 動機づけ手法 統計学的分析法 質問紙調査法

授業科目名	心理学研究マネジメント実習2
科目番号	0BTB013
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 月5,6
担当教員	原田 悦子
授業概要	教員指導のもとで、履修生が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に、グループメンバーの学生の個人差を考慮しながら、より有効な教育・研究指導の在り方について、体験的に学ぶことを目的とする。
備考	その他の実施形態 対面またはオンライン（同時双方向型）により実施
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	教育者や指導者としての能力の形成を図る。 各種の心理学研究法を学生に教えることを通して、心理学研究法の教育・指導に関する能力を形成する。
授業計画	各指導教員が担当する研究グループの学生に対して、教員の指導のもと、院生が中心となって共同研究を遂行させる。研究構想から始まり、研究計画、研究の実施、データ分析、論文執筆、研究成果のプレゼンテーションまでを遂行させ、研究を完成させる。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	研究指導の過程と研究成果の水準を総合的に勘案して単位の認定を行う。実習であるためテストは行わない。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	研究についてわかりやすく学生を指導するため、最先端の心理学研究法について各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。
教材・参考文献・配付資料等	参考文献として以下の著書を薦める。 1. 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編), 『心理学研究法入門：調査・実験から実践まで』東大出版会, 2001 2. 南風原朝和(著), 『心理統計学の基礎 総合的理解のために』有斐閣, 2002 3. 南風原朝和(著), 『続・心理統計学の基礎 総合的理解を広げ深める』有斐閣, 2002 4. 松井 豊(著), 『改訂新版 心理学論文の書き方:卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社, 2010
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	研究の高度な学術的水準の達成と、学生に対するわかりやすい教授の両方を兼ね備えた内容になるよう真摯に取り組むこと。オリエンテーションならびに反省会には必ず参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	教授法 動機づけ手法 統計学的分析法 質問紙調査法

授業科目名	心理学先端研究1
科目番号	0BTB021
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	登藤 直弥, 山口 一大
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	西暦偶数年度開講。 2021年度開講せず。 その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	心理学先端研究2
科目番号	0BTB022
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	ジョイス テリー, 原田 悦子, 生田 目光
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、研究者としての研究展開の在り方を講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	4/24,6/19 その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	心理学先端研究3
科目番号	0BTB023
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	秋A 集中
担当教員	川上 直秋, 松田 壮一郎
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学と深い関連性を有する周辺の領域から先端的研究者を招聘し、心理学と他領域との関連性や今後の融合的転回の在り方について、講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	西暦奇数年度開講。 10/28 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標(学修成果)	
授業計画	
履修条件	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	心理学特別研究D1
科目番号	0BTB031
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	原田 悦子, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 沢宮 容子, 杉江 征, 濱口 佳和, 青木 佐奈枝, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 登藤 直弥, 松田 壮一郎
授業概要	心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期1年目に履修する。特に研究計画を構築して博士論文構想発表会に備えること、また論文形式の研究成果報告の方法について指導を行なう。
備考	その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	心理学の領域で学位論文を作成していくために、博士論文の構想を組み立て、研究計画を構築し、論文形式の研究成果報告の方法について学修する。
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	各指導教員の判断による。
成績評価方法	各指導教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国内外の研究論文を講読する。国内外の学会・研究会などで専門家の意見を聴く。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 原田 悦子 etharada at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 沢宮 容子 sawamiya at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 青木 佐奈枝 s-aoki at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 登藤 直弥 ntodo at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	仮説生成 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床心理学

授業科目名	心理学特別研究D2
科目番号	0BTB032
単位数	1.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	原田 悦子, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 沢宮 容子, 杉江 征, 濱口 佳和, 青木 佐奈枝, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 登藤 直弥, 松田 壮一郎
授業概要	心理学特別研究D1に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期2年目に履修する。特に研究計画全体を考察・展開しながら個々の研究を計画・実施・とりまとめを行なっていくプロセスについて指導を行なう。
備考	その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	心理学の領域で学位論文を作成していくために、博士論文の構想を組み立て、具体的な研究計画を構築し、論文形式の研究成果を報告する。
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	各指導教員の判断による。
成績評価方法	各指導教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国内外の研究論文を講読する。国内外の学会・研究会などで自らの研究成果を発表する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 原田 悦子 etharada at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 沢宮 容子 sawamiya at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 青木 佐奈枝 s-aoki at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 登藤 直弥 ntodo at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	論文執筆 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床心理学

授業科目名	心理学特別研究D3
科目番号	0BTB033
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	原田 悦子, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 沢宮 容子, 杉江 征, 濱口 佳和, 青木 佐奈枝, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 登藤 直弥, 松田 壮一郎
授業概要	心理学特別研究D1、D2に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期3年目に履修する。特に個々の研究の結果をまとめながら、一つの大きな研究としてのまとまりをつけていくプロセス、ならびに成果発表のためのプレゼンテーション法などについて、指導を行なう。
備考	その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	個々の研究成果を学会や学術論文で発表する。また、個々の研究成果を、心理学の領域での学位論文として構成していくために、一つの大きな研究テーマに則して纏める。
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	各指導教員の判断による。
成績評価方法	各指導教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究成果を国内外の学会・研究会などで、また、国内外の学術雑誌で、発表する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 原田 悦子 etharada at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 沢宮 容子 sawamiya at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 青木 佐奈枝 s-aoki at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 登藤 直弥 ntodo at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	プレゼンテーション法 論文構成法 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床

授業科目名	心理基礎科学英語1
科目番号	0BTB041
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春学期 随時
担当教員	原田 悦子, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 登藤 直弥, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。特に自分自身の専門領域としての具体的なテーマに沿った心理学関連のe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1.国際性
授業の到達目標(学修成果)	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で修得する。自らの具体的な研究テーマに沿ったe-learningコースを受講し、基本的な知識を英語で獲得し、当該領域での全体的な研究の動向を英語で理解する。
授業計画	英語による授業を基本とする。各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	各指導教員の判断による。
成績評価方法	各指導教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国外の英語論文を講読する。国外の学会・研究会などを、e-learningコースなどを活用して英語で理解する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 原田 悦子 etharada at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 登藤 直弥 ntodo at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	英語読解力 リスニング能力 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 青年心理学 対人心理学

授業科目名	心理基礎科学英語2
科目番号	0BTB042
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	秋学期 随時
担当教員	原田 悦子, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 千島 雄太, 登藤 直弥, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。自分自身の専門領域に関連する周辺領域について、具体的なテーマに沿った心理学・諸関連科学に関連するのe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1.国際性
授業の到達目標(学修成果)	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で修得する。自らの研究成果を英語で学会発表し、国外の学術雑誌に英語で発表する。
授業計画	英語による授業を基本とする。各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	各指導教員の判断による。
成績評価方法	各指導教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	研究テーマに関連する国外の学会で、自らの研究成果を英語で発表する。国外の学術雑誌に自らの研究成果を英語で発表する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 原田 悦子 etharada at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 登藤 直弥 ntodo at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp <a href="https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/">https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</a>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	英語表現力 英語プレゼンテーション力 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 青年心理学 対人心理学

授業科目名	心理学インターンシップ
科目番号	0BTB051
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	原田 悦子
授業概要	現在の社会に存在する、心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図りつつ、社会における心理学に対する期待と要求について、一研究者として学ぶことを目的とする。
備考	その他の実施形態 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理臨床支援能力 2. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	国内外の企業、官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職の就労体験を通じて、自らの能力や適性の客観評価を図りつつ、社会における心理学に対する期待と要求について学ぶ。
授業計画	就労体験の大学院生を引き受けてくれる企業、公官庁、非営利団体からの許可、交渉の結果によって決まる。
履修条件	担当教員の判断による。
成績評価方法	担当教員の判断による。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	予めアポイントメントをとること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	就労体験先では、筑波大学の大学院生であることを常に自覚して、自らの言動を律すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	就労体験 心理学関連職 適性

授業科目名	臨床心理学特講D
科目番号	0BTB061
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋C 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 沢宮 容子, 青木 佐奈枝, 慶野 遥香, 田附 あえか, 田中 崇恵, 菅原 大地, 生田目 光
授業概要	心理臨床学の各領域について、専攻する指導学生の研究実施ならびにより高度な臨床的 技能の獲得を支援するための演習である。各専門領域における実践について、理論、技 法、研究法を学ぶ。
備考	1/13-2/8 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コン ピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニ ケーション力
授業の到達目標(学修 成果)	心理臨床学の各領域について、専攻する指導学生の研究実施ならびにより高度な臨床的 技能の獲得を支援するための演習である。各専門領域における実践について、理論、技 法、研究法を学ぶ。
授業計画	心理臨床学における研究方法と臨床技能について学習する。各教員が専門とする内容に ついて講義し、心理臨床学の最新の動向を理解し、自身の研究と臨床実践に活かす。講 義の内容は、以下の通りである。 1回目：濱口 佳和 子どもの攻撃行動の基礎研究と臨床実践 2回目：濱口 佳和 いじめ—その理解と予防に向けた取り組み 3回目：杉江 征 日々の実践を科学する : 研究方法と学生相談の実践と研究 (概論と 本学の歴史) 4回目：杉江 征 日々の実践を科学する : 学生相談の実践と研究 (自殺対策と本学の 取組など) 5回目：沢宮 容子 REBTの理論 6回目：沢宮 容子 REBTの実際 7回目：青木 佐奈枝 PTSDの臨床研究と支援の実際 8回目：青木 佐奈枝 解離性障害の臨床研究と支援の実際 9回目：菅原 大地 i-CBTの効果検証とツールの紹介 10回目：生田目 光 心の健康教育と効果測定の基礎
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	レポート(100%)
学修時間の割り当て及 び授業外における学修 方法	講義(100%)
教材・参考文献・配付 資料等	特に定めない。
オフィスアワー等(連 絡先含む)	各回の担当教員に連絡をすること。
その他(受講生にのぞ	

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	0BTB071 臨床心理学実習D1 0BTB072 臨床心理学実習D11
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	心理臨床学, 実践研究, 調査法, 面接法, 実験法, 観察法

授業科目名	臨床心理学実習DI
科目番号	0BTB071
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 沢宮 容子, 青木 佐奈枝, 慶野 遥香, 田附 あえか, 田中 崇恵, 菅原 大地, 生田目 光
授業概要	博士後期課程学生として必要な、心理臨床の実践に関する理論や技法を体験的に学ぶことを目的とする実習科目である。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、自ら修士課程学生に対して助言し、指導者としての技能を習得する。
備考	その他の実施形態 対面またはオンライン（同時双方向型）により実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	博士後期課程学生として必要な、心理臨床の実践に関する理論や技法を体験的に学ぶことを目的とする実習科目である。
授業計画	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、自ら修士課程学生に対して助言し、指導者としての技能を習得する。 1回目：心理臨床学について 2回目：心理臨床学における職業倫理と研究倫理 3回目：相談室の管理と運営 4回目：心理アセスメント・ケースフォーミュレーション 5回目：知能検査・パーソナリティ検査 6回目：インテーク面接 7回目：継続面接・ケース担当 8回目：母子並行面接 9回目：ケースカンファレンス 10回目：グループスーパービジョン
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	相談室における活動 50% ケースカンファレンスでの討論 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に学習に励む。
教材・参考文献・配付	

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	0BTB061 臨床心理学特講D 0BTB072 臨床心理学実習DII
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理臨床学，カウンセリング，事例研究，相談室運営，スーパービジョン，多職種連携，地域支援

授業科目名	臨床心理学実習DII
科目番号	0BTB072
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 沢宮 容子, 青木 佐奈枝, 慶野 遥香, 田附 あえか, 田中 崇恵, 菅原 大地, 生田目 光
授業概要	臨床心理学実習DIに引き続き、心理臨床の実践について理論や技法を体験的に学ぶ。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、修士課程学生に対して助言し、教員による指導を補佐する。
備考	その他の実施形態 対面またはオンライン（同時双方向型）により実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	臨床心理学実習DIに引き続き、心理臨床の実践について理論や技法を体験的に学ぶ。
授業計画	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、修士課程学生に対して助言し、教員による指導を補佐する。 1回目：相談室の管理・運営の説明 2回目：継続面接・ケース担当 3回目：心理アセスメント 4回目：パーソンセンタード・アプローチ 5回目：力動論的アプローチ 6回目：認知・行動論的アプローチ 7回目：多職種連携・チームアプローチ 8回目：ケースカンファレンス 9回目：グループスーパービジョン 10回目：事例発表・事例論文
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	相談室における活動 50% ケースカンファレンスでの討論 50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に学習に励む。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない。

オフィスアワー等（連絡先含む）	両相談室の教員に連絡をすること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	0BTB061 臨床心理学特講D 0BTB071 臨床心理学実習DI
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理臨床学，カウンセリング，事例研究，相談室運営，スーパーヴィジョン，多職種連携，地域支援